

# ブドウ「クイーンニーナ」における着色向上技術

果樹担当 入江尚彦

## 1 ねらい

国育成の「クイーンニーナ」は赤系の大粒で良食味な品種です。近年、栽培面積は徐々に増えていますが、栽培管理によっては着色にムラが発生し生産現場で問題となっています。そこで本研究は、良食味ブドウ果実の高品質安定生産を目的に、「クイーンニーナ」の着色技術の向上について検討しました。

## 2 研究内容

### (1) 環状剥皮による着色効果の調査

着色の向上対策では、主管部に施す環状剥皮（幹の表皮及び師管部を刃物等でぐるりと削る）が一般的ですが、その程度により、樹勢の調整ができず着色効果が発現しない場合や削りすぎて樹勢が極端に低下してしまう場合があります。そこで本試験では、樹勢への影響が少ない満開後30日～35日に結果枝の基部から第3節目の節間にカッターナイフを用い、5mm幅で剥皮（傷口は養生テープで保護）し、果実の着色状況を調査しました。

収穫調査の結果、カラーチャート（C.C.）値、分光色彩計による赤色着色程度（ $a^*$ ）値は無処理区に比べ有意に高く、着色の向上が確認できました。これは、環状剥皮を行うことで葉できた着色を促進する養分を根部に移行しにくくするとともに、根部から吸収された必要以上の水分や養分を抑制できるためと考えられました。

### (2) ジベレリン1回処理による着色効果の調査

「クイーンニーナ」のように無核大粒ブドウにおけるジベレリン処理は通常満開～3日後に無種子化するための処理と満開10日～15日後の果粒肥大を促すための処理の2回行いますが、果粒肥大の効果が大きいと着色が進まないと考えられるため処理の回数について検討しました。

その結果、満開～3日後のジベレリン1回処理区は、2回の処理を行った区と比べ果実肥大は有意に小さい傾向でした。また、C.C. 値や $a^*$ 値は有意差が認められませんでした。着色期の果粒肥大が抑制されることで、着色がやや高まる傾向にありました。今後はジベレリンの処理濃度や時期等を検討し、ジベレリン1回処理の着色効果を確認します。

## 3 今後に向けて

本試験で実施した結果枝基部付近に環状剥皮を施す方法は極端な樹勢の低下を招くことはありませんでしたが、結果枝1本ごとにカッターナイフで、深く抉りすぎないように行ったためかなり時間がかかりました。生産現場では、何百という結果枝に環状剥皮を行うことになるので、簡便かつ効率的に行う方法を検討する必要があります。次年度以降は生産現場で実際に導入が可能となる効率的な剥皮方法の開発に取り組んでいきます。

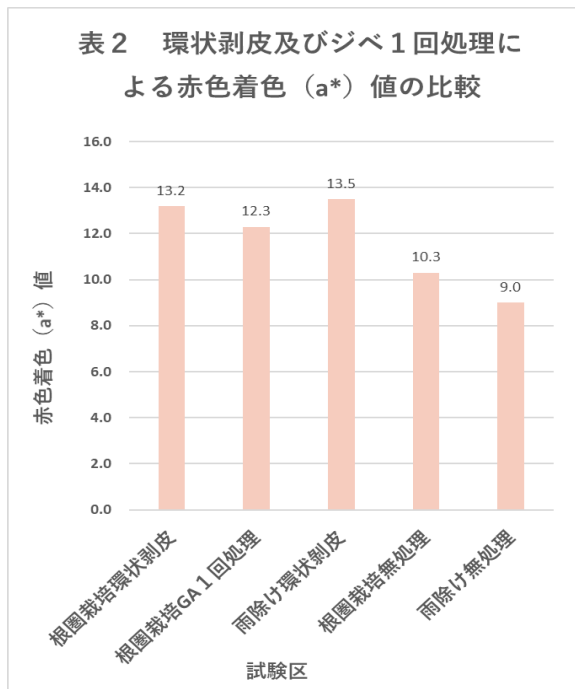
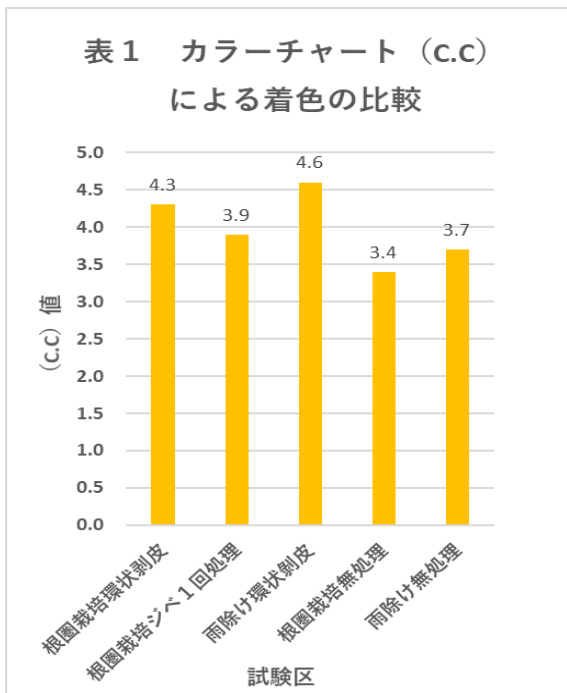


図1 結果枝への環状剥皮



図2 果粒の着色 (左: 環状剥皮処理、右: 無処理)